

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 70 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

- 1 日時 2017 年 02 月 28 日（火）13:30～15:15
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者（順不同，敬称略）
（出席委員）新堀部会長，高橋副部会長，加藤幹事，上田，大久保，片岡，川上，久保，熊谷，熊崎，小山，斉藤，坂下（途中から退室），白井，田中，深澤，藤田，柳原，山本（19 名）
（代理委員）廣瀬恵美子（東芝／小畑）（途中から退室），北山一美（東京工業大学／木倉），仙波毅（原子力安全推進協会／田村）（3 名）
（欠席委員）伊藤，中島，古谷（3 名）
（代理常時参加者）青木広臣（原子力規制庁／吉居）（1 名）
（説明者） [LLW 処分安全評価分科会]山本幹事，[放射能評価分科会]北島幹事，柏木常時参加者（3 名）
（オブザーバー）鈴木啓二（新金属協会），北島英明（原子力安全推進協会），吉原恒一（原子力安全推進協会）（3 名）
（事務局）中越，谷井（2 名）

4 配付資料

- FTC70-0 第 70 回原子燃料サイクル専門部会議事次第（案）
FTC70-1 第 69 回原子燃料サイクル専門部会議事録（案）
FTC70-2 人事について
FTC70-3 “浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の公衆審査結果について
FTC70-4 標準委員会の標準策定 5 年計画の更新について
FTC70-5-1 【中間報告】“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の改定について
FTC70-5-2 中間報告（概要）“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”改定（案）
FTC70-6 標準の概要（英語版）の作成について（依頼）への回答について
FTC70-7 分科会活動状況

参考資料

- FTC70-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
FTC70-参考 2 標準委員会の活動状況

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員 25 名中，代理委員を含め 22 名の出席があり，成立に必要な委員数（17 名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録の確認 (FTC70-1)

前回議事録(案)について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (FTC70-2)

配付資料 FTC70-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、委員退任等が確認され、審議の結果、委員再任等が決議された。

【原子燃料サイクル専門部会】

1) 委員再任の決議

新堀 雄一 (東北大学)

上田 真三 (三菱マテリアル)

大久保 和俊 (原子燃料工業)

坂下 章 (三菱重工業)

高橋 邦明 (日本原子力研究開発機構)

藤田 智成 (電力中央研究所)

山本 正史 (原子力環境整備促進・資金管理センター)

【分科会】

1) 委員退任の確認

【臨界安全管理分科会】

林 芳昭 (日本原燃)

2) 委員選任の承認決議

【臨界安全管理分科会】

早海 賢 (日本原燃)

3) 幹事の指名の確認

【臨界安全管理分科会】

旧: 林 芳昭 (日本原燃)

新: 早海 賢 (日本原燃)

4) 常時参加者登録解除の確認

【リサイクル燃料貯蔵分科会】

中林 健一 (リサイクル燃料貯蔵株式会社)

【LLW 放射能評価分科会】

辻 智之 (日本原子力研究開発機構)

5) 常時参加者登録承認の確認

【LLW 放射能評価分科会】

乾 実紗希 (日本原子力研究開発機構)

(3) 【報告】“浅地中処分の安全評価手法: 201X (案)”の公衆審査結果について (FTC70-3)

LLW 処分安全評価分科会の山本幹事から FTC70-3 に基づいて、“浅地中処分の安全評価手法: 201X (案)”の公衆審査において意見がなかったことが報告された。

(4) 【報告・審議】標準委員会の標準策定5カ年計画の更新について (FTC70-4)

原子燃料サイクル専門部会の加藤幹事からFTC70-4に基づいて、原子燃料サイクル専門部会の標準策定5カ年計画案について報告され、審議の結果、当該案を修正した上で標準委員会へ提出することになった。

(5) 【中間報告】“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の改定について (FTC70-5-1, FTC70-5-2)

LLW放射能評価分科会の北島幹事、柏木常時参加者からFTC70-5-1, FTC70-5-2に基づいて、“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の改定について中間報告がされ、品質マネジメントシステムに関する基本的な考え方の基本方針並びに標準で引用する規定の改定及びその標準への反映などに関する基本方針（引用する標準間の相互調整の方法の検討、見直し時期など）を検討することを標準委員会基本戦略タスクに諮ることとなった。

質疑等は以下の通り。

Q：スクーリングファクタ法（SF法）と濃度比法は、同じように見えるが、使い分けているのか？

A：分析データを収集して評価するSF法と計算によってデータを収集する濃度比法で使い分けている。

C：6.3.1.1 妥当性確認の“物理的相関性の適用”は、相関性には、化学的などいろいろあるため、“物理的”は不要では？

→ 拝承。

Q：理論計算法における妥当性確認の具体的な内容は、標準に示されているのか？

A：附属書Aの中で、準備段階、計算段階、記録段階の各段階での具体例などを示している。

Q：標準の中で、検出困難元素の濃度分布の設定において適用する偏差の定量値を示しているのか？

A：標準では、方法論を示すに止めている。将来の規制側との折衝の中で、具体化すると考えている。

Q：検出困難元素としてClを例示しているが、他にもこの手法を適用する対象には何があるのか？

A：U, Thといった α 核種の起源元素がある。

Q：放射性核種の分布との比較評価は行っているのか？

A：この分布の評価は、入力条件とする化学元素の分布評価であって、放射性核種の分布を評価するものではない。

Q：鉱物、岩石などで評価しているが、金属での評価結果はないのか？

A：金属で検出できないので、その大元となる鉱物などで評価する考え方であ

る。

C：標準間，引用規格の改定に伴う見直しについて，リサイクル燃料貯蔵と輸送容器の分科会でも，標準間の引用に同じ問題が起こっている。ただ，双方の委員の多くが同じため，人による対応でこれを凌いでいる。

(6)【報告】標準の概要(英語版)の作成について(依頼)への回答について(FTC70-6)
原子燃料サイクル専門部会の加藤幹事，山本委員からTC70-6に基づいて，標準の概要(英語版)の作成について(依頼)への回答が報告された。

6 その他

・次回第71回原子燃料サイクル専門部会は，5月25日(木)13:30から開催することとなった。

以上